

# ホームカミングデー2012で 行われた在学生への支援活動

大学校友・父母課

## 各グッズ、引換券1枚と交換



オリジナルペンズ



ステンレスボトル  
(水筒)

11月11日(日)、今出川キャンパスにおいて13回ホームカミングデーを開催。  
雨天にも関わらず多くの卒業生の参加があった。  
昨年と同様、在学生と卒業生に

## 現金のみの購入

### 一澤信三郎帆布オリジナルバッグ (2種類)

同志社OB、一澤信三郎氏の協力のもと製作した限定バッグ。クローバマークを全面にあしらったデザイン。

※限定各100個。



ショルダーバッグ  
¥10,000

トートバッグ  
¥8,000

よる実行委員会を設置し、企画から当日の運営までを相互に協力しあい実施した。  
在学生は卒業生向けのイベントを企画、一方卒業生は後輩たちの為に何か力になりたいという事で、

ホームカミングデーオリジナルグッズとして、一澤信三郎帆布オリジナルバッグや八重さんの絵柄のはいったステンレスボトル、ピンズを製作・販売し、その収益金を東日本震災で被災した在学生の支援へ充てる取り組みを企画した。  
オリジナルグッズはチケット引換方式で購入でき、チケット購入者には更に豪華賞品が当たる福引抽選会に参加できるという仕掛けを取り入れた。新島賞のハワイ旅行やウエスティンホテル大阪ブルジデンシャルスイート宿泊券など、全ての商品が卒業生の方々より寄贈いただいたもので、豪華賞品が当たるたび会場は盛り上がりを見せた。  
沢山の卒業生の方々にご協力いただいた結果、2,948,428円を被災学生支援のため寄付することができた。卒業生の皆さまの善意に心から感謝を申しあげると共に、被災地の日も早い復興を祈念する次第である。

「良心館」「志高館」  
二つの新校舎完成

大学広報課

今出川キャンパスと烏丸キャンパスに、それぞれ新校舎が完成し、2012年10月29日に記念式典を行った。

今出川キャンパスには、同志社中学校移転後の用地に、教室、研究室、学生の自習室や福利厚生施設



特別教室(良心館)

設、ラーニング・コモンズ等を備えた新校舎「良心館」(地下2階、地上5階、建築面積約8,000㎡、延床面積約40,280㎡)が完成した。良心館と既存建物の一部リニューアルに

よって施設の効率的活用を行うとともに、京都市営地下鉄北改札口と良心館との接続通路を設けて、通学生数の増加に備えた。良心館は、京都市の建築基準よりも極力抑えた高さとし、同志社の重要文化財との調和を図るデザインを継承して、景観保全に配慮した。烏丸通と大学との境界には、従来の高い石塀ではなく、沿道からキャンパス内部を眺望できる低い縦格子フェンスを設置し、新しく生まれ変わる



ラーニング・スタジオ(志高館)

る烏丸通沿いの景観が、地域と共生する開かれた同志社大学の姿を映し出すものと期待される。  
京都市から譲り受けた土地に開校した烏丸キャンパス(敷地面積約7,700㎡)には、教室、研究室、学生の自習室や福利厚生施設

設、ラーニング・スタジオ等を備えた新校舎「志高館」(地下1階、地上3階、延床面積約16,600㎡)が完成した。志高館は、この地にあった京都市産業技術研究所繊維技術センター研究棟と同じ高さに抑えられており、地域の景

観保全に配慮している。建物内部のサンクンガーデンは、館内に光や風を取り込む中庭であるとともに、学生が憩い語らうための中心的な空間となっている。このキャンパスは、総合政策科学研究科とグローバル・スタディーズ研究科、

国際教育インスティテュート(英語による授業科目の履修のみで学士課程学位が授与されるコース)及び2013年4月開設のグローバル地域文化学部の拠点となり、同志社大学の「国際主義」を象徴するキャンパスとして期待される。

館名の由来

良心館

新島襄は、『同志社大学設立の旨意』(1888年11月)の中で、「二国の良心とも謂ふべき人々を養成せん」、「所謂る良心を手腕に運用するの人物を出さんことを勉めたりき」と、同志社が行う教育について明確に記している。また、同志社各学校には、「良心の全身に充滿したる丈夫の起こり来たらん事を」と刻まれた『良心碑』があり、同志社教育のシンボルとして新島の志を今に伝えている。21

志高館

世紀における同志社大学の新しい教育体制の出発を象徴するこの建物に、同志社建学の精神を表す最も重みのある「良心」が用いられることとなった。

鎖国の時代にあつて单身渡来した新島襄の高い「志」によつて誕生した同志社の校名は、文字通り「志を同じくする者が集まつて創る結社」を意味する。そのため「志」は、本学において大切な言葉となつており、様々な場面において用

いられている。

「志」を抱いて同志社の門をくぐつた学生の皆さん一人ひとりは、キャンパスライフを謳歌し、學術の知識と、獲得した知識を社会に役立てるための知恵を手に入れた「志」を高めてほしいとの願いを込め、新島が記した『同志社大学設立ヲ要スル主意』(1882年)の文中の言葉「人生ノ志操ヲ高尚ニシ、精神ヲ錬磨シ智力ヲ発達シ思考ヲ奥蘊ナラシメ、又人ヲシテ己ノ本分ヲ知り人類ヲ愛シ」から「志高館」と命名した。



# パレット河原町商店街の 街路リニューアルと ワークショップ

大学商学部教授 あおき まみ 青木真美



商店街を実際に歩いて調査

京都市中京区のパレット河原町商店街（河原町通りの御池〜三条間）は、2000年ごろから、東西線の京都市役所駅ができて通過

する歩行者は増加したが、来店者の減少・放置自転車やバイク、はみ出し看板の問題・アーケードの老朽化などさまざまな課題が表面化し、それらにどう対応すべきか、活性化策を検討してきた。

その結果「人と緑にやさしいまちづくり」をコンセプトに、老朽化したアーケードの撤去、歩行空間の整備、市の事業として電線共同構（地中化）事業の実施、など

が進められた。2012年10月17日にその一応の完成を期して、街頭調査とワークショップが実施され、青木ゼミが調査に協力した。当日はあいにくの雨天であったが、街頭調査でも100名近くの間答を得た。ワークショップでは、障がい者やベビーカーの利用者、高齢者など12名の方に実際整備された商店街を歩いていただき、その後、関係者51名が加わり、計63名が5つのグループに分かれて、意見交換を行った。

街路が整備されても、実際に店舗の入り口の段差などがまだ残る場合も多く、そうしたバリアの除却が今後の課題である。また、商店街の活性化は全国的にも重要な問題とされている。今後もうこうした実態調査を進めていきたいと考えている。

# 同志社生涯スポーツ研究会 DUAL Sport

大学スポーツ健康科学部教授 にのみやひろあき 二宮浩彰  
同志社生涯スポーツ研究会アドバイザー

同志社生涯スポーツ研究会、通称 DUAL Sport (Doshisha University Association for Lifelong Sport) は、スポーツ健康科学部が開設された2008年に、学生有志が集まり発足しました。サークルを設立した趣旨は、スポーツ健康科学部で学んだ理論や専門知識をスポーツの現場で実践しようということでした。現在では、他学部や同志社女子大学の学生も加わり、31人のメンバーが地域社会でスポーツ活動を支援しています。通常の活動としては、適切なスポーツ指導のためのミーティングや練習に励んでいる他、小学校の学童保育で遊び（スポーツ）の相手をしたり、スポーツ健康科学部の教員が行う実験や測定を手伝ったりしています。また、イベントも企画しており、地域連携推進室と共催で小学生を対象とした「スポっこキャンプ」を実施し、ニュースポーツやアウトドア活動が体験できる台宿を行っています。ま



た、160人以上の小学生と保護者が楽しむことができるスポーツイベントとして京田辺市で開催された「親子ドッチボール大会」の運営を行いました。「いつでも」「どこでも」「だれでも」がスポーツを楽しむことができる、というスローガンのもと、

DUAL Sportは子供から高齢者まであらゆる世代がスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けて、その一助となる活動を行うことによって、スポーツを通じた地域社会への貢献といった面で活躍しています。



## MOS世界学生大会2012で 世界第13位に

女子大学

生活科学部人間生活学科2年次生の佐治亜弥香さんが、パソコンの操作技術を競うMOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）世界学生大会2012において、全国のべ65,000人の参加の中から、日本代表5人のうちの1人（パワーポイント部門）に選ばれ、世界大会に出場しました。佐治さんが、MOS世界学生大会へ参加するきっかけとなったのは、大学内で開講されている資格取得支援講座「MOS PowerPoint 2010」の受講。1年次生の春休みに開講されている2週間の集中講座の受講後、大会にエントリー試験・面接を経て日本代表に選出され、7月末にラスベガスで行われた決勝戦で、世界第13位という成績をおさめました。

佐治さんは、「大会では世界各国の学生と交流することができ、自分の世界を広げることができました」と話してくれました。

【資格取得支援講座】  
オンキャンパスコースと、オフキャンパスコースがあり、毎年、のべ2,000名程度の学生が受講。オンキャンパスコースは、授業の少ない時間帯や、夏期・冬期休暇中にキャンパス内にて開講。登録料（1年間10,000円）と教

材費（実費）のみで受講できる。オフキャンパスコースは、社会保険労務士など難関資格に挑戦するための対策講座を指定の専門学校で受講し、在学中に取得、または採用試験に合格すると、奨励金が支給される。



## ウェスリーカレッジとの 交換留学

中学校・高等学校ウェスリー委員会(高校)

オーストラリア・メルボルンのウェスリーカレッジは、1866年創立の私立学校です。同志社高校との交流は、1988年にウェスリー生15名と教員が本校を訪問されたことに始まります。当時、海外派遣の留学プログラムを有する高校はありましたが、本校では付添教員も含めホームステイを前提とした相互交換であること、留学生に選ばれた生徒だけではなく、学校全体で受け入れ、全生徒が交流の機会を持つことなどを柱とし、他に例を見ないプログラムを模索しました。そして、1991年に再び9人のウェスリー生を本校に迎えたことを経て、1992年より完全な相互交換で3週間の留学プログラム実施に至ります。受け入れでは、日常の学校生活を重んじ、ウェスリー生も各クラスに入り、一部の授業やHR活動に参加しました。その受け入れの形態は今に受け継がれています。現在、期間が2週間になります。

だが、本校の1年生8人が、夏期休暇中、メルボルンでホームステイし、現地の学校や日常生活を体験して、多くの驚きと喜びを得ています。ウェスリー生が来日し、日本で生活する9月は、体育祭・文化祭準備で慌ただしい時期にあたります。しかし、ウェスリー生に日本を知って楽しんでもらう、皆で素晴らしい時間を過ごそう、と本校生は心を砕き、その中で、



3年生の家庭科の授業で和菓子作りを体験

ウェスリー生とはもちろん、本校生同士のつながりも強く深いものとなっています。交換留学は、外国の生活を実感するだけではなく、集団で受け入れることで、相手を理解し共に生きることを考え、改めて自分自身や日本の文化を見直すことのできる、またとない機会です。今後も実り多い交流が続くことを願っています。



Go, go, go in peace.  
Be strong. Mysterious Hand guide You!  
DOSHISHA ELEMENTARY SCHOOL SPORTS FESTIVAL

小学校教諭 <sup>おのひろこ</sup> 小野裕子



30人ピラミッド。4・5・6年生各クラスで9基作ります。30人のバランスが大変むずかしく、誰一人欠けても成り立たない技です。

1879年、第1回同志社卒業式で新島先生が卒業生を送り出したはなむけの言葉が、「Go, go, go in peace. Be strong. Mysterious Hand guide you!」（行け、行け、心安らかに行きなさい。力強くありなさい。見えざる御手の導きを）。そうした新島先生の思いを子ども達に伝えようと、徒競走は「Go, go, go in peace. Be strong. 綱引きは「Mysterious Hand guide you!」玉入れは「Rutland Appeal」障害物競走は「Why I departed from Japan」といったように本校のスポーツフェスティバルの競技・演技種目ですべて同志社や新島先生にちな



1・2・3年生が作る、5人スター。星の形に見えます。

んだ名前がつけられています。みんなで力を合わせて力強く、優しく、そしてしなやかな気持ちを持って競技や演技に取り組む、そんなスポーツフェスティバルにしたいという思いから色々な場を設定しています。もちろん新島先生の思いをスポーツフェスティバルに込めるといのは無理があるのかもしれませんが、「一人を大切に」誰も欠けてはいけないスポーツフェスティバルを常に根底において実施していきたいと思い、今年で7年になりました。



1年生のバルーンの演技。気球のようにうまく膨らませるには、全員の息のあったタイミングが必要です。

が同じチームで組み体操を基本にした演技を行っています。1年生は入学してまだ1学期しかたっていないません。身体も耐える心もまだ育ちきつてはいません。それでも必死で下段のものは重さや痛みに耐え、上段のものは高さという怖さに耐え、曲と笛に合わせてタワーやピラミッドを作り上げます。6年経つと驚くほどの子どもたちの成長を目の当たりにします。何度もくじけそうになりながらも本番で出せる力を精一杯発揮し、輝いている子どもたち。ぜひ一度本校のスポーツフェスティバルに足を運んでみてください。

アーチェリークラブ  
2012年度インターハイ結果報告

女子中学校・高等学校教諭 <sup>やまだしんご</sup> 山田慎吾

本校アーチェリークラブは8月3日、6日に行われた全国高等学校総合体育大会（インターハイ）において、団体戦準優勝というすばらしい成績をおさめることができました。

昨年、一昨年はインターハイには出場したものの、思うような結果は残せませんでした。そこで今年は、インターハイへの出場が決まった直後から、森岡監督のもと、チーム全体の力を高めることを念頭において練習を重ねてきました。常に団体での点数を意識したり、大会直前には試合の日程に合わせてリハーサルしたりするなど、団体優勝の目標に向けて工夫した練習を積み重ね、その甲斐もあって予選は第2位で突破することができました。

決勝トーナメント準決勝戦では、突然の天候悪化で試合が約2時間中断されるという異例の事態となりましたが、その間に選手は休憩したり、気持ちを切り替えたりすることができ、この対戦では結果的に中断が追い風にはたきました。

決勝戦では予選第1位の浜松商業に力及ばず敗退しましたが、選手たちは来年こそは優勝しようと練習に励んでいます。

